

2025年度 公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費 実績報告書

2026年4月20日

北九州市立大学長 様

(所属・職名) 外国語学部・准教授
(氏名) 祝 利

公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費に係る研究実績について、次の通り報告します。

研究課題名	「満洲国」中央師道訓練所における中国語教育—教科書の分析を中心に		
交付額	670,000		
共同研究者	所属・職名	氏名	役割分担等

1. 研究の目的

本研究は、中国語教育史の観点から、「満洲国」における最高の教員養成・教育組織である中央師道訓練所に着目し、日本人を対象とした中国語教育および使用教科書についての分析を通して、同訓練所における教育の特徴を検討するものである。

2. 研究の方法

研究方法については、先行文献を精読するとともに、主に中央師道訓練所に関連する史・資料を調査・収集した。さらに、収集してきた史・資料についての分析を行った。

中央師道訓練所で実施された中国語教育を考察するにあたり、まず、『満洲国立中央師道学院史』（長野県南嶺会学院史刊行委員会、1981）を精読し、その中から中国語教育および使用教科書に関する記述を整理・抽出した。次にそれらの記述を『中国語関係書目』（六角恒廣、2001）と照合し、中央師道訓練所で使用された教科書のリストを作成した。その後、作成した教科書リストをもとに、日本国内における所蔵状況を調査し、教科書に関する史・資料の収集を進めた。さらに、中央師道訓練所はもともと中国にある教育機関であることから、中国側における史・資料の保存状況、また現在の研究状況をよりの確に把握するために、中国の長春市とハルビン市の図書館を訪問し、中央師道訓練所に関する史・資料の調査・収集も実施した。最後に、収集してきた史・資料についての分析を行った。

3. 研究成果

本研究は、計画とおり、中央師道訓練所で使用された中国語教科書について調査・収集を実施し、収

集してきた史・資料について分析を行った。また、資料の調査・収集過程において、中央師道訓練所により実施された日本視察旅行に関する一次史料を新たに発見したため、当該史料についての分析も行った。研究結果については、以下の2点にまとめる。

(1) 中央師道訓練所で使用された中国語教科書の収集およびその分析について

『中国語関係書目』(六角恒廣、2001)に掲載されている「満洲国」関係の教科書と、『満洲国立中央師道学院史』(1981)に挙げられている教科書と照合した結果、『官署用会話讀本〔満洲語篇〕注釈書』(嘉村満雄・鮫島国三、1942)が中央師道訓練所で参考書として使用されたことが確認された。幸いにも当該教科書は現在、日本国内では、天理大学の図書館に所蔵されている。報告者は天理大学を訪問し、同教科書を閲覧し、関連史料の収集を行った。中国側での史・資料の調査・収集は、主に「満洲国」の主要都市であった長春市とハルビン市において実施した。現在、中国では、一部の地方図書館において「満洲国」に関する史料が整理・保存されており、そのうち、一部の史料のみが公開、閲覧可能である状況にあることが確認できた。また、近年、中国においては、口述歴史や戦争体験談などの研究が進展し、多数の著作が刊行されていることも確認できた。これら近年の出版物についても、収集を行った。

収集してきた史・資料の分析にあたっては、まず中国語教育学会や日本中国語学会などの学会に参加し、教育史や教科書編纂・分析分野の研究者との交流を通じて、教科書という一次史料の分析方法について意見交換を行った。次にそこで得られた知見や方法を利用し、教科書の具体的な分析に取り組んだ。その結果、『官署用会話讀本〔満洲語篇〕注釈書』は学習参考書として使用されていたのみならず、教員不足が深刻であった僻地においては、教員の代替的役割を果たしていたことが明らかになった。さらに、教科書の内容についての分析を通して、当該教科書には、①本教科書は著者が長年の通訳経験をもとに編纂したものであり、発音については極めて詳細な表現と説明が施されている、②会話文の中には中国東北地方の方言や協和語が散在しており、「満洲国」期における当該地域の中国語の特徴が反映されている、という2つの特徴を有することが解明された。なお、この分析成果については、現在、「『官署用会話讀本〔満洲語篇〕注釈書』についての分析」(仮)をテーマとして論文にまとめているところである。

今後は、「満洲国」における他の高等教育機関についても分析対象に加え、「満洲国」の中国語教育をより体系的に検討していく予定である。

(2) 「満洲国」の教育などについて

①中央師道訓練所に関する史・資料の調査・収集を行う過程において、1939年に中央師道訓練所により発行された『日本旅行報告』という一次史料を発見した。視察旅行は中央師道訓練所の教育の中で重要な一環として実施されていたため、視察旅行について考察することは、中央師道訓練所における教育の実態の解明には十分な意義があると考えられる。中央師道訓練所による日本視察旅行についての分析成果は、「〈満洲国〉中央師道訓練の日本視察旅行」と題する論文にまとめ、『ことばと文字』第19号(日本ローマ字社、2026年3月)pp.46-55に掲載されている。

②「満洲・満洲国」の教育およびそこで使用された教科書に関する紹介文は、『歴史からひも解く日本語教育の世界』(スリーエーネットワック 2026年6月発行予定)pp.42-44に掲載されている。

③「満洲」の教員・官吏の養成組織に関する紹介文は『図説・植民地教科書』(不二出版、2026年6月出版予定)p.257 および pp.259-260 に掲載されている。